

日本・パプアニューギニア協会会報

# ごらくちょう

*Bird of Paradise*

2025  
No.  
86  
31 Jan

発行 NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会 編集 NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 発行日 令和7年1月31日



## 二十五年 新年の御挨拶



橋(岩崎) 廣治 (当協会会長)

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、会員、並びにご家族の皆様のご健康とご多幸を心より祈念申し上げます。

世界ではウクライナ戦争、イスラエル・ハマス戦争を終結させようとの努力がなされています。今年が平和の年になるよう心から祈っている次第です。

今年は戦後八十年、日本・パプアニューギニア外交関係樹立五十周年となります。この記念すべき年が両国の友好関係のさらなる発展の契機になるよう祈っています。

特に戦後八十年は特別な年です。一つには残念なことに先の大戦を知る人々が次々とこの世を去り、語り継ぐ人々が少なくなっていることです。

当協会におきましてもニューギニア戦線を実際に経験された戦友の方々が少なくなっています。私が十数年前に大使として赴任する際には、戦友の方々から、「大使、何の心配もありません。いざとなれば英霊十八万が助けます」と言われま

した。その時、私はその意味が良く分かりませんでした。今は分かります。

当協会には遺族の方々も多くおります。遺骨収集、慰霊巡拝に付け加えて、ニューギニア戦線を語り継ぐ活動をする必要があると思います。戦争体験を決して風化させてはならないと思います。

本年は蛇年だそうです。波乱の年なのでしょうか。

日本をとりまく周辺の国ではまさに波乱そのもの。次に何が起きるのかも分かりません。

パプアニューギニアもその地政学的な立場、南太平洋諸国の主要国として何かと注目されています。日本にとっても大切な国です。協会としては特別なことは出来ないかもしれませんが両国間の人の交流等を通じて両国の友好関係の促進に努めたいと考えております。

本年も引き続きご支援ご協力のほど、なにとぞ宜しくお願いいたします。

## 第 19 回 TokTok 会に参加して

中村 彰（当協会 事務局次長）

2024 年 11 月 21 日 東レ社員クラブにて、パプアニューギニアで NPO 法人 HANDS PNG (Health and Development Service Papua New Guinea) の代表を務める寺田 美和さんを講師としてお迎えし、同年 5 月 24 日に発生した大規模地滑りにより、多数の犠牲者が出たエンガ州ヤンバリ村（首都から北西約 600km）での復興状況や、ボランティア活動の報告を兼ねて、第 19 回 TokTok 会が緊急開催されました。

寺田さんは、長年ボランティアで HANDS に従事され、現在は PNG のプロジェクト・マネージャーとして、現地のボランティアの方々と毎日超々多忙な生活を送られています。

にも関わらず、今回はこの TokTok 会の為だけに時間を作って頂き、わざわざ一時帰国してまで講師を務めて下さいました。本当にありがとうございました。

協会メンバーの関心も高く、当日は 25 名の会員が駆けつけて拝聴させていただきました。

講演の中で興味深いと思ったのは、現地の人々は非常に強い団結力が有り、自分達で協力してあちこちから様々な材料を持ち寄り、あっという間に大きな屋根付きシェルターを作り上げる特技を持って居ると言う事でした。

ボランティアの方々もこのシェルターを共有させて貰う事が出来、ここを拠点にスムーズなボランティア活動が出来たとの事です。本当に良かったと思うと同時に、もしこのシェルターを作る団結力が無かったら、大雨の中でボランティア達はどう

なってたんだろう等と考えてしまいました。

又、お母さんが安心して出産出来る家を、各地の村に建設して居ると言う話もすごいな～と思いました。寺田さんが、今一番力を入れている事の一つとして挙げていましたが、女性の安全を守ると同時に出産時の妊婦・新生児の死亡率を下げる為の事業だそうです。

この家は診療所で、これもやはり村人が自分たちで材料を持ち寄って、立派な家を建ててしまうのだそうです。一刻も早く女性の安全が確保され、安心して出産出来る場所が増える事を祈って居ます。

もう一つボランティアの大変さが垣間見えたお話ですが、ボランティアの方々は世界各国から届けられた大量の各種救援物資を、一刻も早く被災地に運び込む活動にも従事されて居るのですが、何日もかけて運び込んだ救援物資は、食料も含めて自分達の為に流用する事は一切無いそうです。これは徹底されているのだそうで、やはりすごい事だと思います。

報告会は大きな拍手とともに終了し、引き続き懇親会が開催され皆さん大いに盛り上がりました。



## 望月大使壮行会

辻 尚志（当協会 理事）

2024 年 11 月 22 日（金）、渡邊大使の後任として赴任される望月寿信駐パプアニューギニア特命全権大使の壮行会が、内幸町の日比谷中日ビル内シーボニアメイズクラブにて開催されました。

当日は協会から 25 人が出席し、望月大使は会場に入る出席者と言葉を交わされ、会の開始前から温かい雰囲気会場が包まれました。

会の冒頭で、協会の橋会長から開会の挨拶があり、望月大使のご赴任を歓迎し、協会の活動へのご理解をお願いしつつ、日本と PNG との間の益々の関係発展へのご尽力への期待と大使のご活躍を願うメッセージがありました。

望月大使からは、ご挨拶の中で、日本と PNG との関係増強への決意と、協会のこれまでの活動に対するご理解と今後の期待を込めたお話があり、続いて協会の鈴木理事による乾杯の挨拶に続いて、和やかな食事の時間となりました。

是非とも望月大使とお話をしたい出席者が連なる中、望月大使におかれましては、一人一人と長く言葉を交わされ、そ

の温かなご対応と真摯に向き合う姿勢に、お話をすることが出来た出席者全員がとても満たされた気持ちになったと思います。いつまでもお話をしたい出席者が多い中、あっという間に時間は過ぎ、盛会の中でお開きを迎えました。

最後に、個人的な感想ですが、橋会長がインドネシアのメダン総領事、私が JICA のインドネシア事務所次長を務めていた 2004 年 12 月 26 日に「スマトラ島沖大地震およびインド洋津波」があり、日本から最大規模の国際緊急援助隊が派遣されましたが、この時に国際緊急援助室首席事務官を望月大使が務められていたとのこと。あの時から丁度 20 年を迎え、今更ながらに人と人とのご縁を感じています。

望月大使のご健勝とご活躍を会員一同お祈りしております。



望月 寿信（駐 PNG 日本大使）

明けましておめでとうございます。2025年（令和7年、昭和で数えると100年）を迎え、一言ご挨拶申し上げます。



本年はパプアニューギニア及び日・PNG関係にとって特別な年です。独立50周年であり、両国外交関係の樹立後50年という節目の年にあたります。この記念すべき年をお祝いする目的で、両国で公募によるロゴマークの募集を行った結果、ポートモレスビー近郊在住のディアナー・ガベホさんが受賞する運びとなりました。両国旗をモチーフに、パプアニューギニアの国鳥である極楽鳥と日本の象徴である日の丸が、両国の深い友好関係を表現しています。

昨年7月に東京で開催された第10回太平洋・島サミット（PALM10）の成果を踏まえ、種々

の取り組みを通じて二国間関係を一層発展させていきたいと思っております。日本からのハイレベルのPNG訪問だけでなく、大阪・関西万博の機会を捉えPNG官民の多くの方が訪日される見通しです。様々な人の往来・交流や経済協力プロジェクトを推進し、更に日・PNG相互の貿易・投資拡大を促進すべく全力で取り組んで参ります。

皆様のご健康とご活躍、また、当国と関わりのある全ての方々にとり本年が素晴らしい年となることを心より祈念申し上げます。



荻原 聖子（パプアニューギニア大使館 大使秘書）

今年のアジア婦人会バザーの日程が決定致しました。

この場において告知させていただきます。

**アジア婦人会 bazaar (ALFS Bazaar)**

Date: Wednesday, 23 April 2025

Time: 11:00-15:00

Venue: 明治記念館 (Meiji Kinenkan)

チケットの販売はすでに始まっており、例年通り、入場券2,000円、福引券1枚500円となりますので、是非とも皆様お誘いあわせの上ご来場頂ければと思います。

2024年のバザーの分配金は、Abal大使夫人により、Enga州で2024年5月に起きた地滑りの義援金として、エンガ州の州政府に60万円（USD4,000）寄付されました。

バザー参加国の寄付金のあて先は2月10日に明治記念館にて行われる、大使夫人の方々の新年会にて、各国大使館作成のパネルにて紹介されます。

バザーにご関心ある方は荻原までお問い合わせ頂ければと思います（ogiwara@png.or.jp）。

ご協力宜しくお願い致します。

日本・パプアニューギニア協会会員の皆様、初めまして。エアラインプロスと申します。昨年、本協会に入会させていただきました。

エアラインプロスは、アメリカ・フロリダに本社を置き、アメリカや日本を含む世界各地の拠点を通じて、航空会社の販売やマーケティング活動をサポートする会社です。現在、約60の国・地域で事業を展開し、約70社の航空会社とお取引させていただいております。

日本におきましては、パプアニューギニアを拠点とする航空会社 PNG Air を旅行会社を通じて支援しております。具体的には、旅行会社に対し、PNG Air の運航に関する情報提供、販売促進のご相談、サポートなどを行っています。

PNG Air が使用する機材はATR 72-600(72席)など、比較的小型の機材となりますが、皆様ご存じの通り、パプアニュー



ギニアの国土は広大で(約46万平方キロメートル、日本の約1.25倍)、且つ、多くの島々から成り立っています。このため、飛行機は国内の重要な移動手段となっています。

日本からパプアニューギニアへは、ビジネスやレジャーを含め、2019年(コロナ禍前)の時点で、年間約4,000人の方々が渡航されています。私たちは、日本の方々にとって少し特別なディスティネーションであるパプアニューギニアの魅力を、より多くの方々を知っていただきたいと考えています。旅行会社を通じてPNG Airのサービスをご利用いただくことで、より多くの方々が安全にパプアニューギニアを訪れ、その豊かな文化や自然に触れていただきたいと願っております。

ぜひ、協会会員の皆様からも、パプアニューギニアへの渡航に関する体験談やお役立ち情報などをお聞かせいただければ嬉しく存じます。



**事務局からのお知らせ**

2025年もすでにひと月が過ぎました。花粉も飛び始め冬の厳しさと春の気配が交差する微妙な時期かと思えます。

皆様お元気にお過ごしでしょうか? 本年最初のごらくちょうをお届けいたしました。

本年はまず3月6日に「渡辺前駐

PNG大使のお話をお伺いする会」を開催いたします。また本年はPNG独立50周年、戦後80周年の年となりますので、イベントや企画を熟考しております。皆様よりアイデアがございましたらぜひとも事務局までご連絡ください。6月には総会懇親会もごさいます。TOKTOK会も2回ほど開催する予定です。

事務局からお願いがございませう。

当協会の運営は全理事・監事がボランティアにて運営を致しております。いろいろな企画やごらくちょう、メルマガの発行もボランティアにかかっております。つきましては是非ともPNGとご縁がありました方々に協会へご参加いただけるようご推薦をお願いいたします。若い人々の参加は大歓迎です。皆様のご協力をお願いいたします。

**日本・パプアニューギニア協会 会員募集**

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員：25社 ◆ 個人会員：95名 (2025年1月31日現在)

**お問い合わせ先** 日本・パプアニューギニア協会 事務局 〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-12 社会保険労務士会館9階 日本ビジネスライン株式会社内  
 TEL:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

**申し込み方法** 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

**年会費** 個人会員6,000円 家族会員3,000円 法人会員60,000円 学生、PNG人1,000円

**会費受付** 郵便振替口座をご利用ください。

**口座番号** 00140-2-277582

**加入者名** トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ